

アンテナ歴史保存資料 詳細

登録番号 : 388

登録日 : 2025-12-22

登録者 E-Mail:

1. 資料の名称、形式

(Japanese) : 嘉数送信所

(English) :

2. 製作(発明、発表)時期

(Japanese) : 1995 年

(English) :

3. 所有者

RBC 琉球放送株式会社

Ryukyu Broadcasting Corporation

4. 開発者

電気興業株式会社

DKK Co., Ltd.

5. 保存場所

運用中。

沖縄県豊見城市嘉数

6. 資料の歴史的重要性

(Japanese) :

嘉数送信所は、現在全国で唯一のテレビ・AMラジオ兼用の親局の送信所である。TV放送2波(RBC琉球放送とQAB琉球朝日放送)と中波放送1波を共用した自立式基部設置型アンテナであり、1995年に建設された。アンテナ鉄塔は高さ121mであり、中波用アンテナは約96mの高さから地上に向けて12本の副導線を配している。TV送信用アンテナは96mより上部に設置されており、そのため鉄塔上部は急激に絞り込んだ形状となっている。

本送信所は、1960年にRBC琉球放送のアナログテレビ・AMラジオ兼用の放送局として始まったが、1985年にアナログテレビの送信所を豊見城高安テレビ・FM送信所(旧NHK沖縄放送局)に移しており、以後10年間はAMラジオのみの送信所であった。1990年建設された沖縄県の新

庁舎は、RBC 琉球放送の本社から送信されるアナログ放送 STL 波を旧NHK沖縄放送局に届かせるために、屋根の中央部を曲線で切り取った形状になっている。1995 年に AM ラジオの出力増強と QAB の開局にともない、再びテレビ・AM ラジオ兼用の送信所となった経緯がある。その際、AM ラジオの送信塔が本自立式送信鉄塔に変更された。2006 年に RBC・QAB はデジタルテレビ放送を開局したが、その際、RBC はデジタル送信所を嘉数送信所に戻し、アナログ送信所は 2011 年のアナログテレビ放送終了まで旧NHK沖縄放送局にあった。

(English) :

7. 主要性能

高さ： 121m

重量： 約 900t

TV2 波 10kW 空中線 (96m より上部)

中波 10kW 基部設置型空中線 (96m から地上へ 12 本の副導線)

デジタル TV： RBC 琉球放送, QAB 琉球朝日放送

AM ラジオ： RBC 琉球放送

FM ラジオ： RBC 琉球放送

8. 関係論文・文献

・傍島幸司, “中短波放送用アンテナ”, 映像メディア学会誌 Vol. 66, No.12, pp. 986-990 (2012)

https://www.jstage.jst.go.jp/article/itej/66/12/66_986/_pdf/-char/ja

・宇崎卓夫, “創立 70 周年記念特集記事⑤ 鉄塔事業への取り組み”, 電興技報 No.52, 2020

<https://denkikogyo.co.jp/corporate/report/report-52/#19>

9. 関係特許

写真



アンテナ鉄塔, 局舎



TV 用共用器(2波)(局舎内)



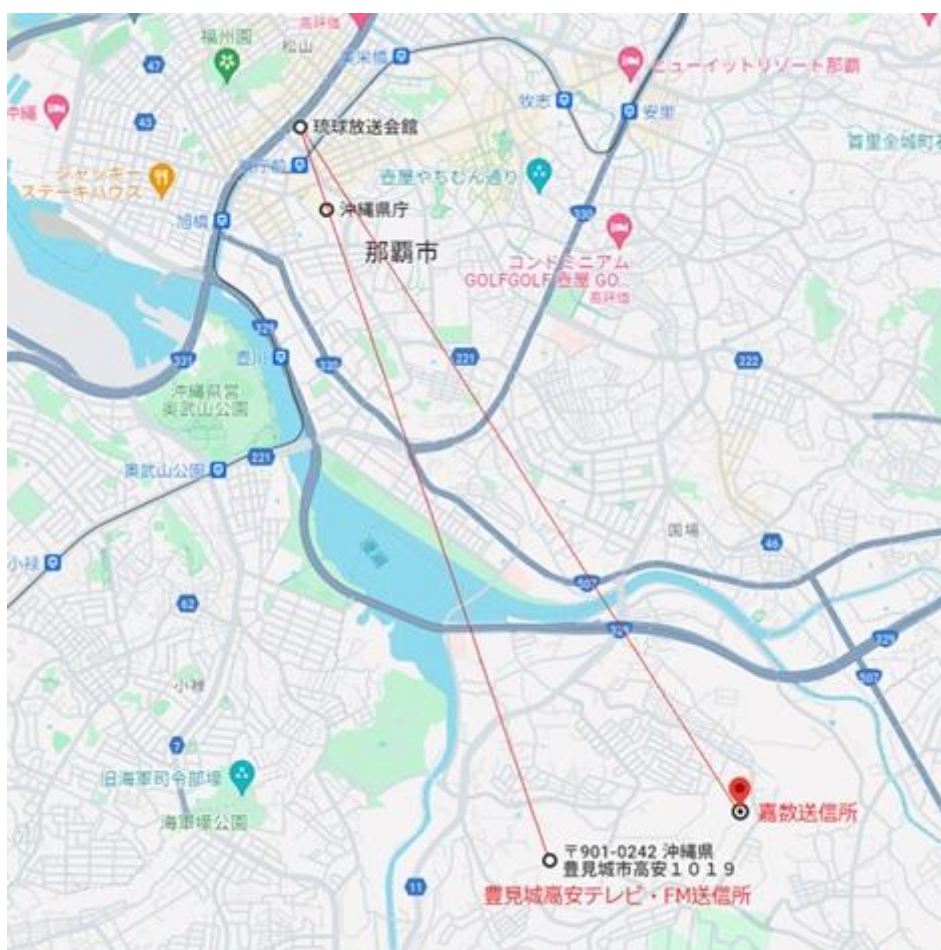
FM 送信設備(局舎内)



RBC 琉球放送本社の屋上の STL 送信鉄塔



RBC 琉球放送本社の屋上から見た沖縄県庁舎



RBC 琉球放送本社と嘉数送信所, 旧NHK沖縄放送局の位置関係 (Google map による)

キーワード

テレビ放送, 中波, 自立式接地型アンテナ,